



# 学院史編纂室便り

NO. 43 (2016.6.1)  
関西学院大学 学院史編纂室

## ★『関西学院史紀要』第22号の発行

3月15日に『関西学院史紀要』第22号を発行しました。当紀要(第6号以降)は「関西学院大学リポジトリ」に登録されていますが、印刷物をご希望の場合は学院史編纂室までご連絡ください(創刊号、2号、12号、13号、15号は在庫なし)。

【論 文】院長に求められるもの—院長職の過去・現在・未来—  
高尾正徳の生涯とその事業

辻 学  
室田 保夫

【記 録】第44回 関西学院史研究会

『Thy Will Be Done —聖和の128年』を刊行して

山本 伸也、小見のぞみ

第45回 関西学院史研究会

W. R. ランバス著『医療宣教(Medical Missions)』の意義をめぐって

堀 忠、神田 健次

## ★ウォルター・R・ランバス著、堀忠訳、山内一郎／神田健次監修『医療宣教—二重の任務』の刊行

関西学院創立者 W. R. ランバスの著書 *Medical Missions: Twofold Task*, New York, 1920 が小児科医であり、神戸栄光教会会員である堀忠さんの翻訳により、関西学院創立125周年記念事業の一環として3月31日に刊行されました(関西学院出版会、2,800円+税)。原書の出版は著者逝去の前年で、「ランバス博士の信仰、専門知識、そして未来への希望がこめられています」と、同書序文にてルース・グルーベル第15代院長が紹介しています。

## ★リガ女声合唱団演奏会に関西学院グリークラブが友情出演

100年近く前、関西学院で教えていたトビア人青年イアン・オブリンの存在がきっかけとなり、合唱大国トビアから来日したリガ女声合唱団の演奏会にグリークラブが友情出演しました。4月6日夜、豊中市立アケア文化ホールは、森の中で小鳥のさえずりを聞いているような心洗われる歌声に包まれました。一方のグリークラブも、若々しく、爽やかな、堂々たる演奏ぶりでした。アンコール曲「さくら、さくら」の合同演奏に大きな拍手が送られました。【写真提供:上野慶三さん】



## ★ランバス・ファミリーの子孫ディヴィッドさんの来日

関西学院を創立した W. R. ランバスの妹ノラの曾孫に当たるディヴィッド・シェレルツさんご夫妻がアメリカから来日され、5月5日、神戸栄光教会の教会員と共に神戸市立外国人墓地に眠る曾々祖父 J. W. ランバスの墓前礼拝に参列されました(詳細は最終頁をご覧ください)。翌6日は、爆破予告騒動のため立ち入りが制限された西宮上ヶ原キャンパスに代わり、関西学院発祥の地(左は神戸文学館にて記帳中のディヴィッドさん)を訪問され、田淵総院長、ルース・グルーベル前院長、舟木讓宗教総主事・学院史編纂室長と懇談されました。神戸文学館の水内眞館長も、ランバス一家来日130年という記念すべき年に日本を初訪問されたディヴィッドさんご夫妻を歓迎してくださいました。



## ★全国大学史資料協議会西日本部会総会・研究会の開催

5月24日、全国大学史資料協議会西日本部会2016年度総会・第1回研究会が関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで開催され、西日本各地の加盟大学より38名(個人会員含む)が参加しました。研究会では田淵総院長による講演「Rejoicing in your fruitful past —学校史を読む視点—」の後、大学博物館で開催中の平常展「Gift for the future 関西学院のあゆみ—学院創立にかけた情熱—」と特集陳列「描かれた聖書—渡辺禎雄の版画—」の見学が行われました。希望者には旧院長室も公開されました。

第46回 関西学院史研究会 (申し込み不要・一般参加歓迎)

日 時： 6月28日(火) 15:10~16:40

場 所： 大学図書館ホール(西宮上ヶ原キャンパス)

講 師： ルース・M・グルーベル(社会学部教授、前院長)

演 題： 「この9年間を振り返って」(仮題)